

SG-DA61500/SG-24DA61500 Signature Series アンプのインストールガイド

安全に関する警告と注意事項

⚠ 警告

製品に関する警告およびその他の重要な情報については、製品パッケージに同梱されている『安全および製品に関する警告と注意事項』ガイドを参照してください。

このデバイスは、次の手順に従って取り付けする必要があります。このデバイスの取り付けを開始する前に、車両または船舶の電源を切ってください。

⚠ 注意

イグニッション保護を SAE J1171 に準拠した状態に保つため、ヒューズは J1171 準拠のヒューズとのみ交換してください。

100 dBA を超える騒音レベルに常にさらされると、聴力が永久に失われる可能性があります。周囲の人の話し声が聞こえない場合は、たいい音量が大きすぎます。大音量で聴く時間は制限してください。耳鳴りがしたり会話がはっきり聞こえない場合は、聴くのをやめて聴力をチェックしてください。

掘削、切断、または研磨を行っている間は、保護ゴーグル、防音保護具、および防塵マスクを忘れずに着用してください。

注記

ドリルで穴を開けたり、のこぎりで切断したりする場合は、表面の反対側に何があるかを常に確認してください。

SG-DA61500 デバイスは、DC 12 V の電源用に設計されています。SG-24DA61500 デバイスは、DC 24 V の電源用に設計されています。それより容量の大きい電源に接続すると、デバイスが損傷する可能性があります。

最適なパフォーマンスを確保するために、オーディオシステムの取り付けは専門の業者に行ってもらうことを強くお勧めします。

取り付けを開始する前に、必ずすべての取り付け手順をお読みください。取り付け時に問題が発生した場合は、www.fusionentertainment.com で製品のサポートを参照してください。

必要な工具

- ドリルとドリルビット
- マイナスドライバ
- ケーブルカッター
- ケーブルストリッパ
- 12 V モデルの場合は 120 A のインラインヒューズまたは回路ブレーカー、24 V モデルの場合は 60 A のインラインヒューズまたは回路ブレーカー
- 4 AWG (21.1 mm²) 電源ケーブル
注：より高い電圧や長時間の稼働のために太いケーブルが必要になることがあります (電源ケーブルのゲージガイド, 2 ページ)。
- 16 AWG (1.31 mm²) スピーカーケーブル
注：長時間の稼働のために太いケーブルが必要になることがあります (スピーカーケーブルゲージガイド, 3 ページ)。
- 20 AWG (0.52 mm²) ケーブル (アンプオン信号)
- デュアル RCA ケーブル (ゾーンごとに 1 本、ステレオスピーカー用) (信号とスピーカーの接続に関する考慮事項, 3 ページ)

- 単一の RCA ケーブルと RCA スプリッタ(ゾーンごとに 1 つ、モノラルサブウーハー用、またはスピーカーのブリッジ出力用) (信号とスピーカーの接続に関する考慮事項, 3 ページ)
- ケーブルタイ (オプション)

取り付けに関する注意事項

⚠ 注意

周囲温度が高い場合や長期間使用した場合は、デバイスエンクロージャが触れると危険な温度に達することがあります。そのため、デバイスは稼働中に触ることがない場所に取り付ける必要があります。

注記

このデバイスは、過酷な温度環境や状況にさらされない場所に取り付ける必要があります。このデバイスに適した温度の範囲は、製品の仕様に記載されています。保管の場合でも、稼働状況であっても、仕様で定められた適切な温度の範囲を外れて、過酷な温度に長時間さらされている場合、デバイスが故障する可能性があります。過酷な温度で生じた損害や派生的な結果については、保証の対象外になります。

このデバイスは、湿気がなく乾いている場所にものみ取り付けするように設計されています。水に触れたり浸水したりする可能性のある場所にこのデバイスを取り付けると、損傷するおそれがあります。水による損傷は保証の対象外です。

- デバイスは、燃料タンクまたは電気配線が干渉しない場所に取り付ける必要があります。
- デバイスは水に触れない場所に取り付ける必要があります。
- デバイスは、適度な通気性があり、極端な温度変化のない場所に取り付ける必要があります。
- デバイスが密閉された空間に取り付けられている場合は、通気を確保するために適切なダクトを備えた冷却ファンを設置する必要があります。
- ケーブルを簡単に接続できるように、デバイスを取り付ける必要があります。
- 磁気コンパスとの干渉を避けるために、少なくともコンパスから 55 cm (22 in.) まで離して設置する必要があります。
- デバイスは、船舶の他の航行に不可欠な装置、アンテナ、無線通信装置などに近い場所に取り付けしないでください。

SG-DA61500/SG-24DA61500 Signature Series のデバイスの取り付け

注記

デバイスをグラスファイバーに取り付ける場合は、パイロットホールをドリルで開けるときに、カウンターシンク形のドリルで、最上部のジェルコーティング層のみにカウンターボア(ナットの頭を収める空間) を開けることをお勧めします。このように処理することで、ねじを締めるときにジェルコーティング層のひび割れを防ぐことができます。

注：ねじはデバイスに同梱されていますが、取り付け面に適していない可能性があります。

デバイスを取り付ける前に、取り付け位置を選択し、取り付け面に適したねじと取り付け部品を決定します。

- 1 デバイスを取り付け位置に設置し、パイロット穴の位置に印を付けます。
- 2 デバイスのいずれか 1 つの隅の位置にドリルでパイロット穴を開けます。
- 3 対応するデバイスの隅を取り付け位置に仮止めし、残り 3 つのパイロット穴の印を確認します。
- 4 必要に応じて、パイロット穴の位置を付け直し、取り付け面からデバイスを外します。



- 5 残りのパイロット穴を開けます。
- 6 取り付け位置にデバイスをしっかりと取り付けます。

カバーの取り外し

アンプのコネクタと設定コントロールにアクセスするには、カバーを取り外す必要があります。

- 1 付属の 3mm 六角レンチを使用して、カバーをアンプに固定しているネジを外します。
- 2 アンプのカバーを持ち上げて外し、すべての接続とアンプの設定が完了するまで横に置いておきます。

接続に関する注意事項

注記

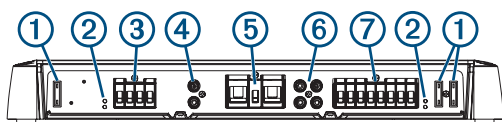
バッテリーからアンプへの配線 (付属していません) は、バッテリーにできるだけ近いインラインヒューズまたは回路ブレーカー (付属していません) を経由する必要があります。ヒューズまたは回路ブレーカーにプラスケーブルを接続する必要があります。インラインヒューズやブレーカーを使用せずにアンプを電源に接続すると、ケーブルに短絡がある場合に火災が発生することがあります。

アンプに何かを接続する前に、オーディオシステムをオフにする必要があります。オーディオシステムをオフにしないと、オーディオシステムが損傷することがあります。

すべての端子と接続部は、船舶のシャーシや相互に接触しないように保護する必要があります。不適切な端子またはケーブルの接触により、オーディオシステムが損傷する可能性があります。

- 他の配線を接続する前に、まずアンプをアースに接続する必要があります (電源を接続する, 2 ページ) 。
- プラスケーブルのバッテリーへの接続は、必ず、アンプへの他のすべての配線が完了してから行ってください。
- ステレオにリモート電源オン信号線がない場合は、スイッチに連動した電源にアンプを接続する必要があります。

ポート ID



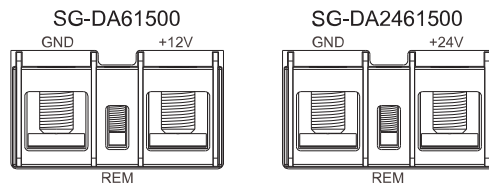
①	ヒューズ。交換の詳細については、製品仕様を参照してください。
②	POWER および PROT (保護) LED インジケータ (トラブルシューティング, 5 ページ)
③	ゾーン 1 のスピーカー端子
④	ゾーン 1 の RCA 入力
⑤	電源、アース、およびアンプオン端子
⑥	ゾーン 2 と 3 の RCA 入力
⑦	ゾーン 2 と 3 のスピーカー端子

電源を接続する

電源ケーブルは、インラインヒューズまたはブレーカーを通してバッテリーに接続する必要があります。

アンペア数の合計とケーブル配線の長さ (電源ケーブルのゲージガイド, 2 ページ) に基づいて、適切なゲージのケーブル (付属していません) を使用してアンプを電源およびアースに接続する必要があります。

- 1 適切なゲージのケーブルをアンプ、そしてポート上のアース位置に配線します。
- 2 付属の 3 mm 六角レンチを使用して、アースケーブルをアンプの GND 端子に接続します。



- 3 アースケーブルのもう一方の端をポート上のアース位置に接続します。
- 4 適切なゲージのケーブルをアンプ、そしてポートのバッテリーに配線し、次のオプションを選択します。
 - 適切な定格のインラインヒューズをバッテリーにできるだけ近づけて、電源ケーブルに取り付けます。
 - アンプの電源ケーブルで使用するために、可能な限りバッテリーの近くにブレーカーが設置されていることを確認するか、取り付けを行います。

注記

他のすべての接続が完了するまで、電源ケーブルをアンプやバッテリー、ブレーカーには接続しないでください。他のすべての接続を完了する前にアンプを電源に接続すると、オーディオシステムが損傷する可能性があります。

- 5 次の中からオプションを選択します。
 - ステレオにアンプのオンケーブルがある場合は、ステレオのアンプのオンケーブルからアンプに 20 AWG (0.52 mm²) ケーブルを配線します。
注：アンプのオン信号を正しく機能させるために、アンプとステレオは、同じ物理的なアース位置に接続する必要があります。
 - ステレオにアンプのオンケーブルがない場合は、バッテリーのプラス端子からスイッチ経由でアンプに 20 AWG (0.52 mm²) ケーブルを配線します。
- 6 付属の 2.5 mm 六角レンチを使用して、20 AWG (0.52 mm²) ケーブルをアンプの REM 端子に接続します。

電源への接続を完了する前に、まずステレオとスピーカーへの他のすべての接続を完了してください (接続の完了, 4 ページ) 。

電源ケーブルのゲージガイド

ほとんどの設置では、4 AWG (21.1 mm²) ケーブルを使用してください。アンペア数の合計が 50 ~ 65 A を超え、またケーブルの配線が 3 ~ 4 m (10 ~ 13 ft) を超えている場合は、次の表を使用して、より大きなゲージのケーブルを使用する必要があるかどうかを判断します。この表は、端子接続の抵抗を示しています。

注：アルミニウム製ケーブルを使用している場合は、以下に示すゲージよりも大きいケーブル 2 ゲージを使用して、ケーブル素材による潜在的な電圧低下を補正する必要があります。

アンペア数合計	0 ~ 4 ft. (0 ~ 1.2 m)	4 ~ 7 ft. (1.2 ~ 2.1 m)	7 ~ 10 ft. (2.1 ~ 3 m)	10 ~ 13 ft. (3 ~ 4 m)
85 ~ 105 A	4 AWG (21.1 mm ²)	4 AWG (21.1 mm ²)	4 AWG (21.1 mm ²)	2 AWG (33.6 mm ²)
105 ~ 125 A	4 AWG (21.1 mm ²)	4 AWG (21.1 mm ²)	4 AWG (21.1 mm ²)	2 AWG (33.6 mm ²)
125 ~ 150 A	2 AWG (33.6 mm ²)	2 AWG (33.6 mm ²)	2 AWG (33.6 mm ²)	0 AWG (53.5 mm ²)

アンペア数合計	13 ~ 16 ft. (4 ~ 4.9 m)	16 ~ 19 ft. (4.9 ~ 5.8 m)	19 ~ 22 ft. (5.8 ~ 6.7 m)	22 ~ 28 ft. (6.7 ~ 8.5 m)
50 ~ 65 A	4 AWG (21.1 mm ²)	4 AWG (21.1 mm ²)	4 AWG (21.1 mm ²)	2 AWG (33.6 mm ²)
65 ~ 85 A	2 AWG (33.6 mm ²)	2 AWG (33.6 mm ²)	2 AWG (33.6 mm ²)	0 AWG (53.5 mm ²)
85 ~ 105 A	2 AWG (33.6 mm ²)	2 AWG (33.6 mm ²)	2 AWG (33.6 mm ²)	0 AWG (53.5 mm ²)

アンペア数合計	13~16 ft. (4~4.9 m)	16~19 ft. (4.9~5.8 m)	19~22 ft. (5.8~6.7 m)	22~28 ft. (6.7~8.5 m)
105~125 A	0 AWG (53.5 mm ²)	0 AWG (53.5 mm ²)	0 AWG (53.5 mm ²)	0 AWG (53.5 mm ²)
125~150 A	0 AWG (53.5 mm ²)	0 AWG (53.5 mm ²)	0 AWG (53.5 mm ²)	0 AWG (53.5 mm ²)

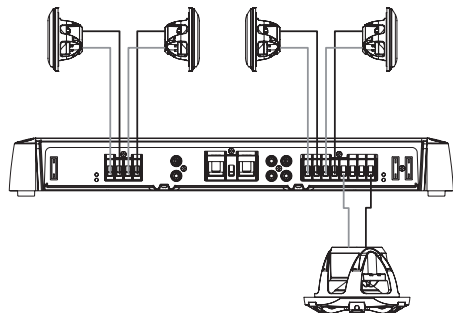
信号とスピーカーの接続に関する考慮事項

ステレオとスピーカーをアンプに接続する場合は、次の点を考慮してください。

- アンプの各ゾーンスピーカー端末のセットは、そのゾーンのRCA入力とペアになっています。
- 各チャンネルは、定格4オームのスピーカー負荷インピーダンス、および2オームの最小スピーカー負荷インピーダンスをサポートします。
- 単一チャンネルで2つのスピーカーを並列に接続できます。合計インピーダンスは2オームの最小負荷インピーダンスより大きくなっている必要があります(複数のスピーカーまたはサブウーハーの並列接続, 3 ページ)。
- ゾーンライン出力またはサブウーハーライン出力のいずれかをステレオからアンプの任意のゾーンRCA入力に接続できます。
- スピーカーとサブウーハーをアンプに接続するには、**スピーカーケーブルゲージガイド**, 3 ページに記載されている適切なゲージのスピーカーワイヤを使用する必要があります。
- スピーカーをアンプに接続するときは、各チャンネルのゾーンと極性のマークを確認する必要があります。たとえば、Z1LはZONE 1の左のチャンネルを示し、Z1RはZONE 1の右のチャンネルを示します。
- スピーカーとサブウーハーの組み合わせをアンプに接続する場合は、下の図のようにサブウーハーをZONE 3に接続する必要があります。このゾーンには専用のBASS BOOSTコントロールがあります。
- サブウーハーは1つのチャンネルに接続できますが、最高のパフォーマンスを得るには、ブリッジモードを使用してサブウーハーを接続する必要があります(ブリッジモードでのスピーカーまたはサブウーハーの接続, 3 ページ)。

次の例では、1つの4オームサブウーハーをZONE 3のブリッジ接続端子に接続し、4オームスピーカーのペアを他の2つのゾーンの左右のチャンネルに接続しています。

この例では、ステレオからのサブウーハーのライン出力はアンプのZ3LおよびZ3RのRCAコネクタに接続し(RCAスプリッタを使用)、ステレオからの2ゾーンのライン出力はアンプの他の2ゾーンのRCAコネクタに接続してください。



スピーカーケーブルゲージガイド

ほとんどの設置では、16 AWG (1.31 mm²) スピーカーケーブルを使用する必要があります。この表を使用して、より大きいゲージのワイヤを使用する必要があるかどうかを判断できます。この表は、端子接続の抵抗を示しています。

注: アルミニウムまたはすずめっきのケーブルを使用している場合は、以下に示すゲージよりも大きいケーブル2ゲージを使用し、ケーブル素材による潜在的な電圧低下を補正する必要があります。

4 Ω 負荷 (スピーカー 1 台)

アンプとスピーカーの間の距離	ワイヤゲージ	推奨ケーブル
0~8.5 m (0~28 ft.)	16 AWG (1.31 mm ²)	010-12899-00 ¹
8.5~21 m (28~69 ft.)	12 AWG (3.31 mm ²)	010-12898-00

2 Ω 負荷 (スピーカー 2 台並列)

アンプとスピーカーの間の距離	ワイヤゲージ	推奨ケーブル
0~4 m (0~14 ft.)	16 AWG (1.31 mm ²)	010-12899-00
4~10.5 m (14~35 ft.)	12 AWG (3.31 mm ²)	010-12898-00

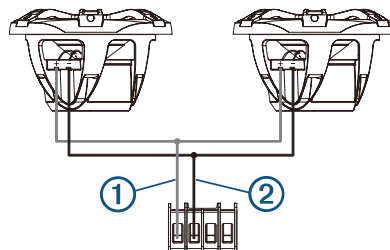
複数のスピーカーまたはサブウーハーの並列接続

同じインピーダンス定格、モデル番号、タイプの複数のスピーカーまたはサブウーハーを並列して接続できます。同じインピーダンス定格のスピーカーを並列して接続する場合は、共通インピーダンス定格を並列接続するスピーカーの合計数で割って合計インピーダンスを計算する必要があります。たとえば、2台の4オームスピーカーを並列接続する場合、そのインピーダンスは2オームになります(4÷2=2)。

注記

インピーダンスが2オーム未満の複数のスピーカーをアンプの単一チャンネルに接続しないでください。各ゾーンの出力につき2台以上のスピーカーを並列接続しないでください。

- 1 スピーカーケーブル①をアンプのチャンネルまたはゾーンのプラス端子に接続します。



- 2 スピーカーケーブルを各スピーカーのプラス端子に接続します。
- 3 チャンネルまたはゾーンにある両方のスピーカーのプラス端子からのケーブルを、アンプのプラス端子に接続されているケーブルに接続します。
- 4 アンプ②のマイナス端子と、チャンネルまたはゾーンにある両方のスピーカーに対してこの手順を繰り返します。

ブリッジモードでのスピーカーまたはサブウーハーの接続

ブリッジモードでスピーカーまたはサブウーハーを接続すると、2つの出力チャンネルを組み合わせることで、供給できるパワーの量が増加します。これは、大量の空気を動かす大きなサブウーハーや、音を途切れさせずにスピーカーを大きな音で再生する場合に効果的です。

注記

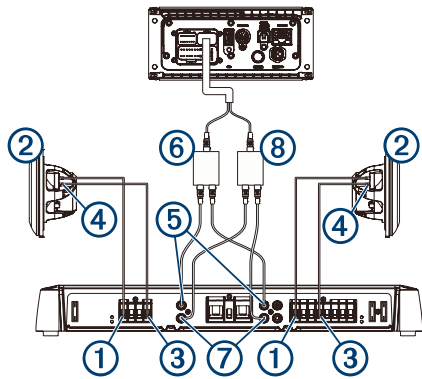
ブリッジモードで接続するスピーカーには、増幅された出力の処理に対応できるスピーカーを使用してください。ブリッジモードでは、1つのチャンネルの出力を2倍以上にすることができます。

ゾーン上のブリッジ接続された端子には、4オームの負荷のみを接続する必要があります。ブリッジ接続された端子に2オームの負荷を接続すると、アンプ、スピーカー、またはサブウーハーが破損することがあります。

注: ゾーン内のチャンネルをブリッジする場合は、RCAスプリッタを使用して、ゾーンの左右両方のチャンネルに同じ信号を送信する必要があります。

- 1 ゾーン①の左チャンネルにあるアンプのプラス端子にスピーカーケーブルを接続します。

¹Fusion スピーカーケーブルはさまざまな長さで販売されています。詳細については、最寄りのFUSION®販売店にお問い合わせください。



- 2 スピーカーケーブルのもう一方の端をスピーカーまたはサブウーハー ② のプラス端子に接続します。
注: ゾーン用にブリッジ接続された端子はラインに接続され、区別がしやすいよう BRIDGED のラベルが付けられています。
- 3 ゾーン ③ の右チャンネルのマイナス端子にスピーカーケーブルを接続します。
- 4 スピーカーケーブルのもう一方の端をスピーカーまたはサブウーハー ④ のマイナスの端子に接続します。
- 5 RCA スプリッタのスプリットエンドを、アンプ ⑤ の両方のブリッジゾーンの左 RCA ポートに接続します。
- 6 RCA スプリッタの片側を左 RCA ステレオ出力 ⑥ に接続します。
- 7 RCA スプリッタのスプリットエンドを、アンプ ⑦ の両方のブリッジゾーンの右 RCA ポートに接続します。
- 8 RCA スプリッタの片側を右 RCA ステレオ出力 ⑧ に接続します。
- 9 ゾーンの音量レベルおよびその他の設定を調整します (ゾーンのレベルの調整, 4 ページ)。

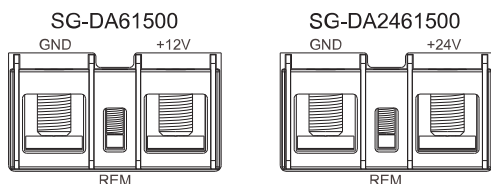
接続の完了

アンプを電源に接続する前に、アンプへの他のすべての接続を完了しておく必要があります。

- 1 すべてのスピーカーケーブルがスピーカーとアンプに接続されていることを確認します。
- 2 すべての RCA ケーブルがアンプとステレオに接続されていることを確認します。
- 3 アースケーブルがアンプとバッテリーに接続されていることを確認します (電源を接続する, 2 ページ)
- 4 アンプオンケーブルがアンプとステレオからのアンプオンケーブルまたは専用スイッチ (電源を接続する, 2 ページ) に接続されていることを確認します。
- 5 付属の 3 mm 六角レンチを使用して、電源ケーブルをアンプのプラス端子に接続します。

注記

SG-DA61500 デバイスは、DC 12 V の電源用に設計されています。SG-24DA61500 デバイスは、DC 24 V の電源用に設計されています。不適切な電源に接続すると、デバイスが損傷する可能性があります。



- 6 次の中からオプションを選択します。
 - 電源ケーブルのもう一方の端をインラインヒューズ経由でバッテリーに接続します。

- 電源ケーブルのもう一方の端を適切なブレーカーに接続します。

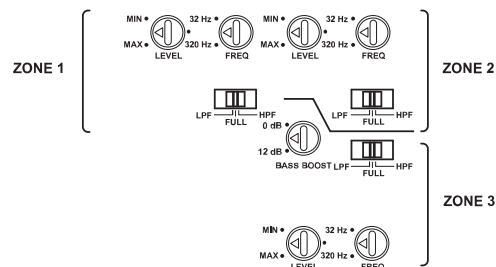
アンプの設定

アンプを使用する前に、接続しているすべてのスピーカーとサブウーハーに対してアンプを設定する必要があります。

アンプを設定する前に、すべての電源、スピーカー、およびステレオの接続を行っておく必要があります。

注: ステレオに FUSION Apollo™ RA770 などのデジタル信号プロセッサ (DSP) が搭載されている場合は、FUSION-Link™ アプリを使用してアンプを設定します (DSP 互換ステレオのアンプの設定, 5 ページ)。

アンプの設定コントロール



各ゾーンには、そのゾーンに接続されるスピーカーのサウンド設定に使用するコントロールセットがあります。

ダイヤルまたはスイッチ	機能
LEVEL	ゾーンの入力信号レベルを調整します (ゾーンのレベルの調整, 4 ページ)。
FULL	ゾーンにフルレンジフィルタを設定します。すべての周波数を許可します。これは通常、フルレンジスピーカーがゾーンに接続されていて、サブウーハーがない場合に使用します。
LPF	ゾーンにローパスフィルタを設定します。フルレンジスピーカーのみが出力すべき中から高周波数を除去します。これは通常、サブウーハーがゾーンに接続されているときに使用します。
HPF	ゾーンにハイパスフィルタを設定します。サブウーハーのみが出力すべき低周波数を除去します。これは通常、小型のスピーカーがゾーンに接続されている場合に使用します。
FREQ	ゾーンのクロスオーバー周波数を調整します。LPF / HPF の設定を基にして調整する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • LPF を選択すると、FREQ の設定より低い周波数がすべてゾーンに接続されたサブウーハーに送られます。 • HPF を選択すると、FREQ の設定より高い周波数がすべてゾーンに接続されたスピーカーに送られます。
BASS BOOST	45 Hz のレベルでゲインを調整します。このコントロールは ZONE 3 でのみ使用できます。この設定は、サブウーハーまたは低周波数に対応しているフルレンジスピーカーをゾーンに接続している場合のみ調整してください。

ゾーンのレベルの調整

注: レベル設定は音楽によって異なり、すべてのレベルがすべてのタイプの音楽に適しているわけではありません。たとえば、ロック音楽用にレベル設定を調整してからクラシック音楽を再生すると、クリッピングによる歪みが発生する可能性があります。

- 1 マイナスドライバを使用して、ダイヤルを反時計回りに回してゾーンの LEVEL ダイヤルを MIN に調整します。
- 2 ステレオでオーディオの再生を開始し、ゾーンのライン出力を約 $\frac{3}{4}$ の音量に設定します。

- 3 ゾーンに接続されているスピーカーの音を聞きながら、ゾーンの LEVEL ダイヤルを時計回りに MAX 設定にゆっくりと調整します。
- 4 スピーカーからの音が歪んでいる場合は、ダイヤルの調整を停止し、歪みがなくなるまでダイヤルをゆっくりと反時計回りに調整します。
- 5 他のゾーンについてこの手順を繰り返します。

DSP 互換ステレオのアンプの設定

ステレオに FUSION Apollo RA770 などのデジタル信号プロセッサ (DSP) が搭載されている場合は、最善の結果を得るために FUSION-Link アプリを使用してアンプを設定します。

- 1 ステレオのマニュアルの指示に従って、FUSION-Link アプリをダウンロードし、ステレオに接続します。
- 2 FUSION-Link アプリで適切なステレオ、アンプ、およびスピーカーを選択します。
- 3 FUSION-Link アプリの指示に従って、アンプの設定コントロールを調整します。

仕様

12 V モデル

定格出力	4 オーム : 100 W RMS x 6 @ DC 14.4 V 入力 < 1% THD +N (EIA / CEA-490A) 2 オーム : 140 W RMS x 6 @ DC 14.4 V 入力 < 1% THD +N (EIA / CEA-490A) 4 オームブリッジ接続 : 280 W RMS x 3 @ DC 14.4 V 入力 < 1% THD+N (EIA / CEA-490A)
入力感度	DC 0.3 V ~ 8 V RMS、調整可能
動作電圧	DC 10.8 ~ 16 V
電流ドロワー (@DC 14.4V 入力)	スタンバイ : 1 mA 未満 アイドル : 2.5 A 未満 最大 : 75 A
ヒューズ定格	3 @ 40 A ATC ブレードタイプ (SAE J1171 準拠)
注記	
イグニッション保護を SAE J1171 に準拠した状態に保つため、Bussmann ATC-40 などの J1171 ヒューズとのみ交換してください。非準拠のヒューズを使用すると、アンプが損傷し、保証が無効になることがあります。	

24 V モデル

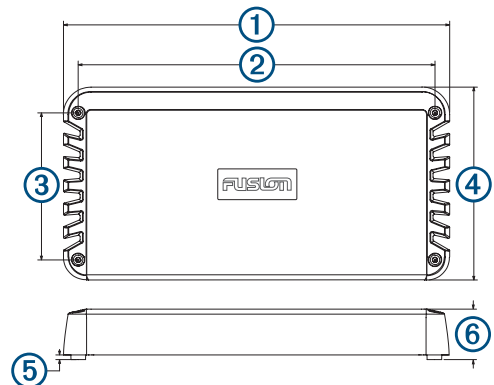
定格出力	4 オーム : 100 W RMS x 6 @ DC 28.8 V 入力 < 1% THD +N (EIA / CEA-490A) 2 オーム : 140 W RMS x 6 @ DC 28.8 V 入力 < 1% THD +N (EIA / CEA-490A) 4 オームブリッジ接続 : 280 W RMS x 3 @ DC 28.8 V 入力 < 1% THD+N (EIA / CEA-490A)
入力感度	DC 0.3 V ~ 6 V RMS、調整可能
動作電圧	DC 21.6 ~ 32 V
電流ドロワー (@DC 28.8 V 入力)	スタンバイ : 1 mA 未満 アイドル : 1.25 A 未満 最大 : 35 A
ヒューズ定格	3 @ 20 A ATC ブレードタイプ (SAE J1171 準拠)
注記	
イグニッション保護を SAE J1171 に準拠した状態に保つため、必ず J1171 ヒューズと交換してください。非準拠のヒューズを使用すると、アンプが損傷し、保証が無効になることがあります。	

全モデル

アンプクラス	クラス D
周波数応答	10 Hz ~ 40 kHz (-3 dB @ 4 オーム定格出力)
ピーク出力	1500 W
入力インピーダンス	7 kOhm 定格

信号雑音比	85 dB @ 定格出力、4 オーム 53.1 dB @ 1 W、4 オーム
分離 / クロストーク	60 dB
ハイパスフィルタ / ローパスフィルタ	ユーザー選択可能
フィルタのクロスオーバー周波数	32 Hz ~ 320 Hz、ユーザー調整可能
フィルタのクロスオーバースロープ	12 dB / オクターブ
バスブースト	0 ~ 9 dB、ユーザー調整可能 (ZONE 3 のみ)
リモート電源オン	DC 6 V 閾値
保護回路	逆電圧 入力電圧不足 / 過電圧 高温 出力短絡
コンパス安全距離	55 cm (22 in.)
動作温度範囲	0 ~ 50°C (32 ~ 122°F)
保管温度範囲	-20 ~ 70°C (-4 ~ 158°F)
防水等級	湿気がなく乾いた場所に設置してください
重量	カバーを取り付けた状態で 4.5 kg (9.9 lb)

サイズ



①	420 mm (16 ⁹ / 16 in.)
②	388 mm (15 ¹ / 4 in.)
③	160 mm (6 ⁵ / 16 in.)
④	210 mm (8 ⁹ / 32 in.)
⑤	5 mm (3 / 16 in.)
⑥	56.6 mm (2 ¹ / 4 in.)

詳細情報

SG-DA61500/SG-24DA61500 Signature Series の登録
オンラインで製品を登録することで、サポートを強化できます。

- www.fusionentertainment.com を参照してください。
- 購入時のレシートまたはコピーは安全な場所に保管しておいてください。

トラブルシューティング

FUSION デイラーまたはサービスセンターに連絡する前に、問題の診断に役立てるために簡単なトラブルシューティング手順をいくつか実行してください。

FUSION アンプが専門の設置会社によって設置されている場合は、その会社に連絡し、技術者に問題の評価と可能な解決策についてのアドバイスを求めてください。

音が聞こえず POWER LED が消灯している

- アンプの電源オンケーブルがステレオまたはスイッチに接続されていることを確認し、必要に応じてすべてのケーブルを締めるか再接続します (電源を接続する, 2 ページ)。注: アンプのオン信号を正しく機能させるために、アンプとステレオは、共通のアースに接続する必要があります。
- 電源ケーブル (バッテリーの近く) のヒューズまたはブレーカーを点検し、必要に応じてヒューズを交換するか、ブレーカーをリセットします。
- アンプのヒューズを点検し、必要に応じて切れたヒューズをすべて交換します。ヒューズが切れている場合は、赤色の保護 LED が点灯します。
- 電源とアースケーブルの接続を確認し、必要に応じてすべてのケーブルを締めるか再接続します。
- 配線図に従って、電源が正しい方向に接続されていることを確認します。
- 電源電圧がアンプに適した電圧であることを確認します。
- 電源ケーブルの長さに適したゲージを使用していることを確認し、必要に応じてケーブルを太いゲージに交換します (電源ケーブルのゲージガイド, 2 ページ)。

音が聞こえず、POWER LED が点灯している

- ステレオの設定を確認し、適切なゾーン出力またはサブウーハー出力の信号が有効になっていることを確認します。注: 出力信号の有効化または設定の詳細については、ステレオのマニュアルを参照してください。
- ステレオに電源が入っていること、また音量が低すぎないことを確認します。
- ステレオへの RCA ケーブル接続を確認し、必要に応じて、取り外したケーブルをすべて再接続します。
- アンプのゾーンの LEVEL 設定とステレオのゾーンの最大音量設定を確認し、必要に応じてアンプの LEVEL またはステレオの最大音量を上げます (ゾーンのレベルの調整, 4 ページ)。
- スピーカーのケーブル接続を確認し、必要に応じて、取り外したすべてのケーブルを再接続します。
- 電源ケーブルが適切なゲージであり、ヒューズが付いていて、正しく接続されていることを確認します (電源を接続する, 2 ページ)。

一方の POWER LED は点灯しているが、もう一方の POWER LED は消灯している

- POWER LED が消灯しているアンプの側面にあるヒューズを確認し、切れたヒューズをすべて交換します。

PROT LED が点灯している

PROT LED がシステムの障害を示しています。故障が検出されると、アンプがシャットダウンして損傷を防止します。

- 電源ケーブルとアースケーブルのスリーブの切れ、または裸になったケーブルの接触がないかどうかを確認し、必要に応じてケーブルを修正、修理、または交換します。
- スピーカーケーブルのスリーブの切れ、または裸になったケーブルの接触がないかどうかを確認し、必要に応じてケーブルを修正、修理、または交換します。
- アンプの温度を点検し、アンプが非常に高温の場合は、より換気の良い場所に移動するか、換気ファンを取り付けてください (取り付けに関する注意事項, 1 ページ)。

スピーカーからハム音などの予期しないノイズが聞こえる

- グランドループアイソレータをステレオからの RCA ケーブルとインラインで取り付けます。注: グランドループアイソレータは、ステレオに接続されているすべての RCA ケーブルに取り付ける必要があります。グランドループアイソレータは、RCA ケーブルのアンプに接続する部分ではなく、ステレオに接続する部分に取り付ける必要があります。

音が歪んでいるかクリッピングされる

- ステレオからの出力を確認し、必要な場合はゾーンのライン出力を約 $\frac{3}{4}$ の音量に設定します。
- 問題が解決するまで、歪みまたはクリッピングが発生しているゾーンのアンプの LEVEL 設定を調整します。注: レベル設定は音楽のタイプによって異なり、すべてのレベルがすべてのタイプの音楽に適しているわけではありません。たとえば、ロック音楽用にレベル設定を調整してからクラシック音楽を再生すると、クリッピングによる歪みが発生する可能性があります。